



書評同人 直 部 直
Tadashi Karube
平松洋子
Yoko Hiramatsu
山内昌之
Masayuki Yamauchi



世界史の大転換
常識が通じない時代の読み方
佐藤優、宮家邦彦/PHP新書/886円

山内昌之

明治大学特任教授、東京大学名誉教授・国際関係学

地理から 世界情勢を読み解く。

いま日本でいちばん魅力的な対談コンビによる新書である。宮家邦彦氏と佐藤優氏の著書『世界史の大転換』のキー概念は、「ダークサイド」という言葉である。もともと映画『スターウォーズ』に由来する言葉のようだ。醜態かつ不健全にして排外的で時に暴力を伴う「大衆迎合主義的ナショナリズム」こそ、ダークサイドに他ならない。宮家氏によれば、経済の格差と不平等、それに伴う生活や将来への不安が、世界中に広がるダークサイドを生み出した根源なのである。

ことにヨーロッパの場合、ダークサイドは反移民、反イスラーム、反EUになり、アメリカの保守層からすれば反少数派、反新移民や反イスラームになるというのだ。ついでに言えば、日本のダークサイドとは、「妄信的な反中・韓と反北朝鮮」になるらしい。アメリカでは言わずと知れたトランプ現象である。確かに、白人・男性・低学歴・ブルーカラーを中心とするブア・ホワイトの現状不満層がダークサイドの担い手になるのだろう。その背後には、当然「ブライトサイ

ド」つまり光の部分もある。それは、理想主義やアメリカンドリームを体現したワシントンとエスタブリッシュメントであり、彼らへの反感や怒りがダークサイドの力の源泉である。佐藤優氏も対談で述べたように、クリントン夫妻と娘のチェルシーは成功者の代名詞であり、アメリカンドリームの体現者である。夫が大統領になり、娘が経営コンサルタントとして成功しただけなく、クリントン財団の副会長として両親の講演活動を任切っているのだ。ヒラリー

は一回二〇万〜三〇万ドルの講演料を要求して響盛を買った。これは無理もない。二〇一四年のビルの講演収入だけでも、一三四〇万ドルだったというのだから、アメリカンドリームの恩恵に浴さない人びとはどう思ったのだろうか。佐藤氏も語るように、ダークサイドから見れば、クリントン一家の存在そのものが怒りの対象になると言っても間違いないのだ。外務省を導く事情で辞めた一人は、多くの点でトランプ現象をアメリカ専門家

以上に、正確に理解している。それは、「これ以上失うものがない九九%の貧困層からすると、既存政治を破壊して社会をひっくり返すことが浮上のきっかけになるかもしれない。閉塞感を打破するためにトランプに期待する、という感覚だったのではないだろうか」という佐藤氏の指摘である。今秋の米大統領選挙は疑いなく世界史の大転換を画するかもしれない。

場を尊重せよというメッセージである。KGBに勤めていた自分は、ソ連が崩壊すれば全部が根本的に変わらなってしまうのに、何も変わらなかつたと言語ながら、注目すべき指摘を公にした。「地政学的な問題は、イデオロギーとは何の関係もないからだ」と。ウクライナやクリミアからシリアにおけるロシアの失地回復や権益保持に向けてプーチンのさまざまな執着の基本にあるのは、やわな国際政治の楽観的な認識や、ましてや国際協力・人道支援といった日本人好みのテーゼでなく、純粹に口

シアに得か損かだけで判断する冷徹な利益主義である。財政破綻したギリシアにロシアが接近したのは、正教世界の諷刺という大義に託して、EUに亀裂を入れEUが弱まると「ラッキー」という乾いた論理で攻める突破口になるからだ。物語やロマンはプーチンの地政学的思考には必要がない。イギリスの離脱によってEUが分裂する点こそ、ロシアの願っていた最良のシナリオであった。今回の離脱はロシアにとって満点のシナリオ表現に他ならない。

点から重要な指摘を忘れない。もともと歴史における時間のスケールで考えるなら、民族や近代国家といった要素は脆弱であり、何かの変動があればすぐに吹き飛んでしまう。歴史の浅い国民国家の器の中で中東の抱える問題を解決しようとしても、歴史や宗教の独特な構造を考えると、そもそも無理があったのではないかと語り、一九一六年のサイクス・ピコ秘密協定以前の状況に戻ること以外に解決策はないと示唆する。

「使える地政学」は、地政学とは何かについて分かりやすく解説しながら、現代の紛争や衝突を解析するうえで手本を示した新書である。「学問形態としては、二十世紀初めにあらわれた政治学、あるいは国家学。地理的諸条件から国家や民族の特質を説明しようとする学問。マクロの視点、言いかえれば大所高所から国家間の関係を捉える場合が多い」。

こう定義した上で、佐藤優氏は、「地政学は乾いた学問」だと、簡潔に本質を言い当てる。そのうえで、地政学を世界でいちばん有効に外交と内政に活用している国はロシアだと推定する。

プーチン大統領は、かつてウクライナ問題に寄せて、ロシアのような国には固有の地政学的な利益があることを、他の国々ももっと理解すべきだと公言したこともある。EUやNATOはロシアの立場

これは正しい道筋を示しているが、解決には気の遠くなるほどの時間がかかるだろう。中東分割を定めたサイクス・ピコ秘密協定が諸悪の根源だというのは、地域研究者なら誰でも言うことだ。しかし、一九一六年以前に戻れど大胆に提言し、「解決までにとだけ時間がかかっても、問題の原点に戻ることからはじめられない」と提案するのは、著者に地政学の認識に裏打ちされた冷静なリアリズムが備わっているからだろう。



使える地政学
日本の大問題を読み解く
佐藤優/朝日新書/821円

ロシアのガジエフが書いた地政学の書『オポレチーカ』(二〇一四年)を自家薬籠中のものにしたが、些末な事象の説明やメディア登場に踊らされるだけの各地域事情専門家を尻目に、大局観と構図を分かりやすく説いた書物として評価したい。